



地球を壊す大人 立ち上がる若者



地球危機の解決策を
発信・実践しています

「母なる地球を守ろう研究所」

ははラボ通信 第3号

2020.11.30 発行

～一っしかない地球の代わりはない～



今すぐ
行動を!



大人の尻ぬぐいを 若者に

わたしたち

押しつけるなんて、

おかしくない?

大人はやってるフリだけ...
(グリーンウォッシュ)



しっかり
せんかい!
大人たち!



気合いを入れて
ほしい人は
こちら



ほどほどにね!!

一緒に活動する メンバー募集中

「ははラボ」は現在3名で活動中!

～こんな活動してます～

- オンラインセミナー、講演会
- 販売事業 (家畜の放牧)
- 農業見学会・研修会
- 政策提言 (アドボカシー) **予定**

まずは
facebookを覗いてみてね!

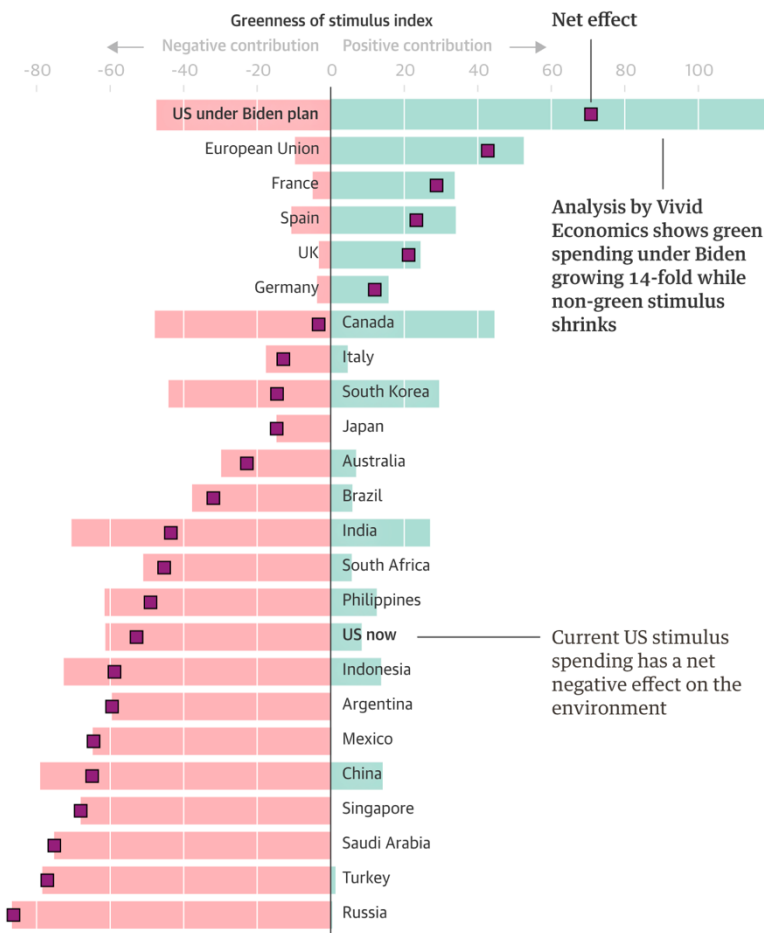
Follow us!



母なる地球を壊し続ける大人 立ち上がる若者

たった一個しかない母なる地球。企業が投資家が利潤をあげるために無限の経済成長を続ければ、やがて文明は破綻を迎える。1970年代に、ローマクラブが『成長の限界』¹⁾という本を刊行して警告しました。小学生でも分かりそうな理屈です。しかし、大の大人、それも国を動かす政治家が大企業の社長が無限の経済成長を止めようとしませんでした。ローマクラブが警告して以来50年が経とうとしています。リーマンショックの2008年を除き、この50年間近く経済成長を止めることはできませんでした。熱帯雨林は急速に減少し、生きものは急速にいなくなり、大気中の二酸化炭素、メタンガス、亜酸化窒素は増え続けてきました。母なる地球を壊し続けてきたのです。

このままでは、未来の世代は壊れてしまった地球で生き延びることを強いられると、若者たち



Guardian graphic. Source: Vivid Economics

が世界各地で立ち上がりました。その象徴(アイコン)がスウェーデンの女子高校生グレタ・トゥーンベリさんです。その効果もあってか、2019年から20年にかけて多くの国が『カーボン・ニュートラル』を宣言しました。

しかし、イギリスの新聞ガーディアン²⁾によると、新型コロナウイルスからの復興計画が化石燃料を減らすなど緑の復興に『正味』貢献しているのは、EU、フランス、スペイン、イギリス、ドイツと来年誕生するバイデン政権のアメリカだけだということです。日本には緑の復興は計画されていない体たらくです。中国、韓国、インド、インド

ガーディアン紙が評価した各国の復興計画

ネシアなどのアジア各国も従来型の地球を壊す産業の復興支援の方がずっと多い、あるいは日本と同様に緑の復興は皆無だということです。

さらに、グretaさんの記事³⁾によると、EUの復興計画はEU国内の排出削減が含まれているが、海外との貿易や人の移動に伴う温室効果ガス排出やEU内で消費されるために海外で生産された製品の製造過程における温室効果ガス排出も入っておらず、EUがパリ協定を遵守する高い目標を掲げているのはまやかしたと批判しています。ということは、2ページ目の図でアジア諸国が従来型の産業で地球を壊しているのは、EUなどの先進国のせいだともいえるのです。

加えて、EUの復興計画は、現在地球環境を壊しているEU内の工業型農業に何の制約もなく補助金を配ると反対運動が起りましたが、政治家は方向転換することはありませんでした⁴⁾。

これほど地球を壊して、さらに地球を守るべき政策もフリだけで(グリーンウォッシュといいます)、若者にダメ出しされても、悔い改めないとはひどいダメ大人といわざるを得ません。同じ大人として恥ずかしい限りです。

注)

- 1) ドネラ・H・メドウズ『成長の限界—ローマ・クラブ人類の危機レポート』(1972年)
- 2) 『Revealed: Covid recovery plans threaten global climate hopes』 Guardian (2020年11月9日)
- 3) Greta Thurnberg 『The EU is cheating with numbers — and stealing our future』 Medium (2020年10月5日)
- 4) Greta Thurnberg 『Withdraw this CAP』 Medium (2020年10月24日)